

とく建設大成
テック大成

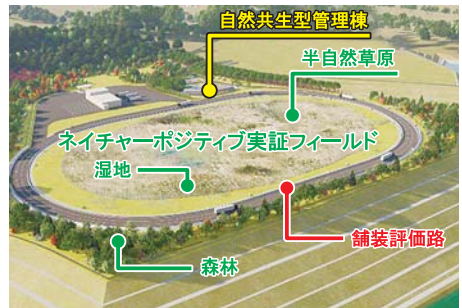
民間初の「舗装評価路」完成

福島に新たな研究施設

大成建設と大成ロテックは、福島県田村市に大成建設グループの新たな研究施設を開設した。次世代舗装技術の開発とともに、自然共生・再生などの環境課題の解決に寄与する取り組みを実証、評価

する。2024年12月には、国内民間企業で初となる「舗装評価路」が完成。今後、「自然共生型管理棟」「ネイチャーポジティブ実証フィールド」を順次整備していく。

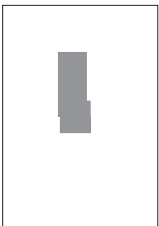
同施設は、新たに開発する次世代道路舗装技術の実証、評価を行う舗装評価路を主体に、施設全体の管理、運営を担う自然共生型管理棟、舗装評価路の内側と外周部の造成地に整備するネイチャーポジ



車両を5台、1周909㍎の舗装評価路で昼夜問わず走行させることで、耐久性の評価に掛かる時間を大幅に短縮する。

また、新たな舗装用材料や構造の耐久性を評価するほか、理論設計方法の検証や舗装材料の力学試験結果などから、舗装の耐久性を予測する手法の確立に向けた実証実験などを行う。道路舗装の耐久性向上により、舗装の建設から維持管理までのライフサイクルでのCO₂排出量削減が期待できる。

― 関連3面



※無断転載・複写不可

大成Gの研究施設開設

舗装技術開発、環境課題解決へ

大成建設と大成ロテックは、福島県田村市に開設した大成建設グループの新たな研究施設で、2024年12月に完成した次世代道路舗装技術の実証、評価を実施する「舗装評価路」を皮切りに、「自然共生型管理棟」ネイチャーポジティブ実証フィールド」を順次整備する。同施設を多角的に活用し、次世代舗装技術の開発とともに、自然共生・再生といった環境課題の解決に役立つ取り組みを実証、評価することで、持続可能な社会の実現に役立てていく。

11面参照

同施設の開設は、ライフサイクルにおけるカーボン・ネガティブの実現を目指す研究管理棟を持つ、大成建設グループ次世代技術研究所（埼玉県幸手市）の建設プロジェクトに続く取り組みとなる。次世代舗装技術の開発と環境に関わるさまざまな課題の解決に向け、それぞれが独自の取り組みを展開する。舗装評価路は、国内民間企業初の保有となり、大成ロテックが福島県田村市と結んだ企業立地に關する基本協定に基づいて整備した。

今後整備する自然共生型管理棟

自然共生型管理棟

管理棟は、施設全体の管理・運営を担う。水資源や水環境の持続的な活用を可能にする「ゼロウォータービル」として整備し、26年度の供用開始を予定している。同施設での実証成果を生かし、将来的には上下水インフラ設備の乏しい地域にゼロウォータービルを広く普及させたい考



え。
木造2階建ての建物には、地産製材を活用する。建物の主要構造部材には汎用（はんよう）性が高い一般流通材を使った大スパン構造を採用し、木架構汎用化技術の実証を実施する。

ネイチャーポジティブ実証フィールドは、生物多様性を育む緑地環境として舗装評価路の内側と外周部に配置し、自然再生の長期実証を始める。舗装評価路の内側には半自然草原を創出する。希少な生態系である半自然草原と湿地の管理方法の確立を目指す

す。緑化に使う植物は、全て田村市周辺から種子を採取し、植栽する。舗装評価路の外周部では、地域の種苗を使い、樹木の特性に配慮しながら質が高い自然の森の早期創出を目指す。取り組みの成果を蓄積し、さまざまなネイチャーポジティブ関連技術を提供していく。